

岡山県における栽培漁業の取り組み

栽培漁業の取り組みは、国が昭和 38 年に栽培漁業センターを整備し、瀬戸内海をモデル海域として、クルマエビ、マダイ等を対象に種苗生産・放流を実施したのがはじまりとされています。昭和 49 年には沿岸漁場整備開発法が制定され、栽培漁業が沿岸漁業の振興策として位置づけられるとともに、各都道府県において栽培漁業センターの整備が進められました。

岡山県においても昭和 40 年代を中心にアユ、クロダイ、ヨシエビ等の量産技術開発試験に取り組み、昭和 53 年には栽培漁業センターを整備し、ヨシエビ、ガザミ、クロダイ、サヨリ及びアユ放流用種苗の生産業務を開始しました。その後、ヒラメ、キジハタ、サワラ、オニオコゼなど重要漁獲対象種の生産技術開発に取り組み、これまでに岡山県で生産した放流用種苗は、魚類 9 種、甲殻類 5 種、その他 2 種（ハマグリ、ナマコ）の計 13 種（内水面放流用：魚類 1 種、甲殻類 1 種を含む。）に上ります（表 1）。

当研究所が行う海面放流用種苗の生産は、県の栽培漁業基本計画に沿って行われていますが、この計画は 5 年ごとに水産資源の状況や漁業者の意見等を

踏まえて対象種や生産数等の見直しを行っており現在は令和 4 年 3 月に策定した第 8 次岡山県栽培漁業基本計画に基づいてガザミ 410 万尾、ヨシエビ 400 万尾及びオニオコゼ 5 万尾を生産しています。また、内水面放流用種苗としてアユ 50 万尾及びモクズガニ 10 万尾を生産しており、海面、内水面ともに栽培漁業による積極的な水産資源の増大を図っています。

現在、水産研究所では施設の老朽化のため、旧施設を解体して新種苗生産棟の建設を行っています。このため、本年度は一部が仮設の設備による生産となったことから、飼育方法を工夫するなどして対応していますが、モクズガニ、ガザミ及びヨシエビは生産目標を達成することができ、10 月からはアユの飼育を行っています。

今後、新施設を活用し、目標である「豊かな海・川の実現と魅力ある水産物の消費拡大」の実現を目指して、栽培漁業への取り組みを一層強化していきたいと考えています。

（栽培・資源研究室：中力）

表 水産研究所における放流用種苗生産魚種の推移

	S53	S60	H1	H10	H20	H30	R4 (年)
海面放流用							
クロダイ							
サヨリ							
アイナメ		—	—				
ヒラメ							
キジハタ							
マコガレイ		—					
オニオコゼ							
サワラ							
ガザミ							
ヨシエビ							
クルマエビ							
クルマエビ							
ハマグリ							
マナマコ							
内水面放流用							
アユ							
モクズガニ							